合田外科新聞

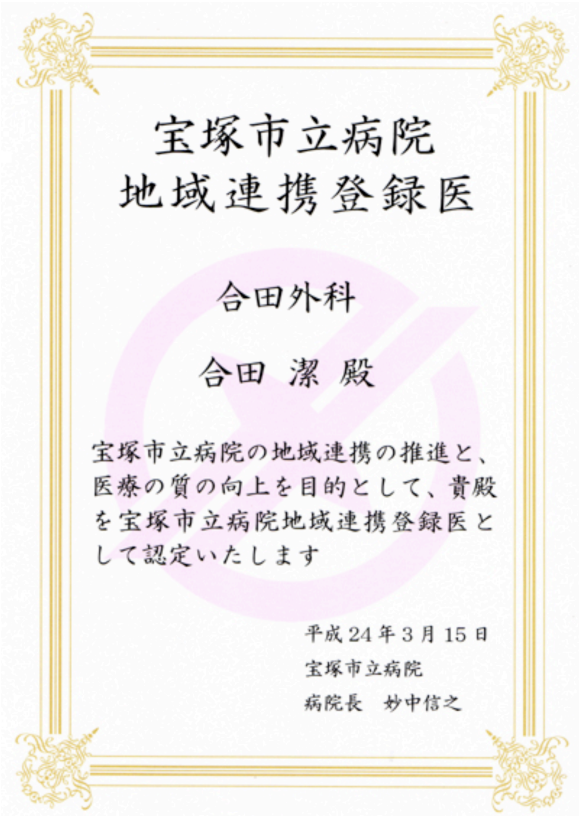
GSC

ホームページ　www.godageka.jp
ブログ　www.kiyoshi-goda.cocolog-nifty.com/jp

平成24年7月
第61号

合田外科
TEL　0797-71-2132
FAX　0797-74-1430

最近の話題：地域医療連携


宝塚市立病院
地域連携登録医

合田外科

合田 潔 殿

宝塚市立病院の地域連携の推進と、医療の質の向上を目的として、貴殿を宝塚市立病院地域連携登録医として認定いたします

平成24年3月15日
宝塚市立病院
病院長　妙中信之

最近、「地域医療連携」という言葉がよく使われるようになってきました。これは地域全体の医療・介護施設で地域の患者様を診ていこうという新しい考え方で、全国的に広まりつつあります。従来、医療は色々な病院・医院がバラバラに診療を行い、相互の関係は希薄なものでした。例え医院から病院に入院・手術の患者様を紹介しても、必ずしも連携がとれている訳ではなく、紹介の結果がどうなったか判然としない場合も多々ありました。「地域医療連携」の考え方では地域の色々な施設が各々の特色を生かした役割を果たします。例えば開業医による診療所は外来や在宅医療を、急性期病院は手術や急性疾患を、慢性期病院は急性期の後のリハビリなどを、そして介護施設は退院後の受け皿になったり在宅での生活の援助を行います。これらの多くの施設が協力して患者様に切れ目のないサービスを提供し、地域の中で完結した医療を行う訳です。宝塚市においても医師会を中心に地域医療連携に取り組み、民間の宝塚病院・宝塚第一病院・宝塚リハビリテーション病院・児玉病院や医師会に所属する診療所、あるいはステップハウスやケアヴィラなどの介護施設が顔の見える関係を築き、連携して医療に携わるようになってきています。この度、公立の宝塚市立病院も地域連携に積極的に携わることになり、当院も連携医として登録を致しました。個々の患者様に最適な医療ができる様、これからも多くの施設で共同して取り組んでいきます。

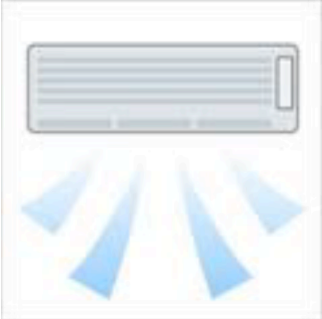
病気の知識：大腸の病気：③ 感染性腸炎

感染性腸炎は細菌・ウィルス・寄生虫などの病原体が腸管に感染して生じます。多くは食品や汚染された水を介して広がります。下痢・腹痛・発熱などの症状が主で、大概は重篤にはなりませんが、時には血便を生じることもあり、この場合には注意が必要です。昨年、ユッケによる食中毒で多くの方が亡くなる事故がありましたが、腸管出血性大腸菌が原因でした。夏場は菌が繁殖しやすいため、しっかりと手や食器を洗い、また食物は生で食べずに、中心までしっかりと火を通してから食べるようにして下さい。

医院よりのお知らせ

①熱中症に気をつけましょう！！

今年も暑い季節がやって来ました。この時期に気をつけなければならないのが「熱中症」です。熱中症は気温が高い時や激しい運動などで体内にたくさんの熱が発生すると起こり易いのですが、時には屋内でじっとしていても起こることがあります。症状は軽い場合には手足の筋肉に痛みを伴う痙攣が起こる程度ですが、ひどくなると目眩・頭痛・嘔吐などが起こったり、極端な場合には意識をなくして死亡することもあります。しっかりと水分を摂ったり冷房をいれて室温を下げることが大切ですが、今年は日本全国で原子力発電所が停止しており、特に関西では電力不足が懸念されていて冷房もままなりません。個人での電力不足対策は難しいのですが、当院では重油を用いたボイラーで冷房を行っておりますので、停電で電気系統が止まらない限り電力不足と関係なく使用可能です。院内全体を冷やしていますので暑い時期には涼みがてらご来院下さいませ。



②ジェネリック医薬品切り替えに関して

医薬品は特許が切れると多くの製薬会社が製造販売できるようになります。このようなものはジェネリック医薬品と呼ばれ、品質は同等ですが価格が大幅に安くなります。政府も医療費抑制の為にジェネリック医薬品の使用を推奨しており、当院でも品質や供給体制が安定しているものはジェネリック医薬品を使用しています。今回、コレステロール治療薬のリピトール１０ｍｇをアトルバスタチン１０ｍｇ「サワイ」に、糖尿病治療薬のアクトス３０ｍｇをピオグリタゾン３０ｍｇ「ＮＰ」に、アルツハイマー症治療薬のアリセプト５ｍｇをドネペジル塩酸塩５ｍｇ「ＮＰ」に切り替えました。何れの薬剤も製造会社こそ違え、成分・効能は同じですので安心してご服用下さい。

③お盆休みに関して

８月のお盆休みは例年どおり、８月１３日（月）～１５日（水）の３日間の予定です。ご来院の皆様にはご不便をおかけ致しますがご了承願います。

今そこにある危機：③兵庫県立こども病院移転問題

兵庫県立こども病院は神戸市須磨区にある子供専門の病院です。１９７０年、全国２番目の小児専門総合病院として開設され、外科から精神科まで他の施設では難しいこどもの病気を診療しています。兵庫県のこどもの病気の最後の砦であり非常に重要な病院です。最近になり、施設の老朽化等の問題で立て替え・移転の構想がでていましたが、２０１５年を目処にポートアイランドに移転する計画が県から発表されました。ポートアイランドでは現在神戸中央市民病院が立て替え中で、また理化学研究所などの研究施設もあり連携を図るということですが、人工の埋め立て地への専門病院の一極集中は地震や津波の可能性を考えるとリスクが大きいのではと懸念する声もでています。どうも今回の移転計画は純粋に小児の為の医療を考えたものではなく、医療を産業にしようと企んでいる神戸市の方針に沿ったものの様です。

合田外科新聞

GSC

ホームページ　www.godageka.jp
ブログ　www.kiyoshi-goda.cocolog-nifty.com/jp

平成24年10月
第62号

合田外科
TEL　0797-71-2132
FAX　0797-74-1430

最近の話題：鬱（うつ）病

最近、新聞や週刊誌などでよく鬱病のことが取り上げられるようになってきました。昔は鬱病というと、重度の精神疾患やノイローゼの一種と誤解されることも多かったようですが、「鬱は心の風邪」というキャッチコピーで鬱病に対する偏見や恐怖心は随分と和らいできたようです（もっとも風邪よりは重症ということで、ごく最近では「鬱は心の肺炎」と言われているようですが）。それでは鬱病とはいったいどのような病気なのでしょうか？人間は誰しも生活の中の様々な出来事が原因で気分が落ち込んだり憂鬱になったりします。これは誰にでもあることです。普通はある程度の時間が経つと気分は回復してきますが、いつまでたっても気分が回復せず、強い憂鬱感が続く場合があります。時にははっきりとした原因がないのに気分の落ち込みが強くなって日常生活に支障が出る場合もあり、このような状態は鬱病であると考えられます。鬱病の原因はまだ十分には解明されていませんが、几帳面・生真面目・仕事熱心・責任感が強い等の性格の方に多く、大きなストレスが発症の原因になると考えられています。近親者の死亡やリストラといった悲しいことばかりでなく、結婚や昇進といった嬉しいことも時にストレスとなって鬱病を引き起こします。鬱病の症状としては気分が落ち込む・憂鬱・興味や喜びの消失・強い焦燥感等の精神症状に加えて睡眠の異常・食欲の異常・疲労等の身体症状がよく見られます。気をつけなければならないのは希死念慮（＝自殺願望）で、鬱病からの回復途中でしばしば自殺が見られます。特殊な型の鬱病として４０代半ばから５０代にかけて身体的衰えや社会的変化が原因で起こる初老期鬱病、高齢者が認知症様の症状を示し希死念慮が強い老人性鬱病、また憂鬱感はないのに身体症状（疲労・動悸・胃痛・不眠等）が強く出現し精神症状が身体症状でマスク（仮面）されている仮面鬱病等があります。鬱病では十分な休息が必要です。また最近では薬物療法が進歩しており、副作用が少なく効果的な薬剤が色々と登場しています。どうも最近疲れやすい、憂鬱だなど鬱病様の症状がある方はぜひご相談下さい。専門医と協力して対処させて頂きます。

病気の知識：大腸の病気：④ 炎症性腸疾患

炎症性腸疾患というのはあまり馴染みのない病名ですが、腸の内側の粘膜に炎症や潰瘍を生じる原因不明の慢性の腸炎です。主にクローン病と潰瘍性大腸炎の２つを指しますが、いずれも若年者に多く、下痢・血便・腹痛などの症状が続きます。原因ははっきりしていませんが、おそらくは免疫の異常が関与していると考えられています。昔は稀な病気と考えられていましたが最近２０年程で患者数が急増し、２００７年で１０万人を越えています。近隣では兵庫医科大学が全国でもトップクラスの専門的治療を行っています。

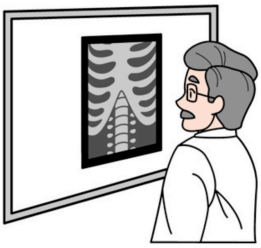
医院よりのお知らせ

①インフルエンザワクチンのお知らせ

インフルエンザワクチンの季節がやって来ました。今年も例年通り１０月１５日より接種開始となります。ワクチンの接種料金は例年と同様で表の通りです。６５歳以上の宝塚市民（あるいは西宮等の近隣市にお住みで市役所で証明書をもらってきて下さった方）は１０００円の負担金で接種を受けることができます。また６０歳以上で特定の疾患をおもちの方（身体障害１級等）の場合にも１０００円で接種可能なことがあります。詳しくは当院の受付でお気軽にお尋ね下さいませ。

	お一人	お二人以上	接種回数
65歳以上（市民）	1000円／人	1000円／人	1回
13歳以上65歳未満	3500円／人	3000円／人	1回
13歳未満	3000円／人	2000円／人	2回

②肺がん検診再開



夏の間は休止になっていた宝塚市の肺がん検診が９月より再開しました。９・１０・１１月の３ヶ月が検診期間となっていますので、まだお済みでない方はお早目にどうぞ。４０歳以上の市民が対象で、宝塚市国民健康保険加入の方や７０歳以上の方、また市民税非課税世帯の方は無料です。各医療機関で撮影されたレントゲン写真は集められ、宝塚市肺ガン読影委員会で専門の医師がダブルチェックを行い、より精度の高い検診を行っています。

③肝炎ウイルス検診

宝塚市は肝炎ウイルス感染を早期に発見し治療につなげるため、４０歳以上の特定の年齢の方に「無料受診券」を送付しています。ウイルス性肝炎は肝硬変から肝臓がんに至る病気ですが、自覚症状に乏しく、症状が現れた時には相当に進行しています。早期に発見できれば有効な治療法もありますので、受診券を受け取った方は是非検診を受けて下さい。

今そこにある危機：④ 東北メディカル・メガバンク構想

東北メディカル・メガバンク構想は殆どの方が初耳ではないでしょうか？これは東日本大震災の被災地で健診などを行いながら、同時に数世代に渡る被災地住民の生体情報（血液・尿・遺伝子情報）や健康情報・診療情報を一括して収集保管し（バイオバンク）、長期間追跡調査を行って様々な病気と主にゲノム（遺伝子）の関係を調べようという計画です。何十万人の人々を対象とした非常に大がかりなプロジェクトです。しかしこのような計画が本当に被災地にとって必要であるのか疑問の声があがっています。確かに被災地住民は継続した健康診査を受けることができますが、そのかわりに究極の個人情報であるヒトゲノム情報を提供することになり、不利益が生じる可能性もあります。このような計画は世界各地で行われつつありますが、合意形成と実行には十分な時間がかけられています。今回の計画は震災に乗じた火事場泥棒の様な印象です。

合田外科新聞

GSC

ホームページ　www.godageka.jp
ブログ　www.kiyoshi-goda.cocolog-nifty.com/jp

平成25年1月
第63号

合田外科
TEL　0797-71-2132
FAX　0797-74-1430

最近の話題：高齢者は得か！？

高齢者は医療費の自己負担も少なく、年金ももらえて得をしているという意見があります。しかし本当にそうでしょうか？バブルの崩壊以降日本経済は長期に渡って低迷しており、またデフレも続いています。このように経済的に苦しい中で現役世代は年金や医療・介護の保険料など負担感が強いのは確かです。厚生労働省が平成２４年に行った調査でも５９歳以下の世代では「自分が一生涯で負担した額と比べて（ややもしくはかなり）少ない給付しか受けられない」と考えている人が半数を超え、年齢が若くなるほどその比率は上昇し、２０歳代前半では９０％の人がそのように考えています。実際、平成２１年度財政検証における厚生年金（基礎年金を含む）の世代間における給付と負担の関係によると、昭和１５年生まれの人は払った保険料の６倍以上の年金をもらい、昭和２５年生まれは４倍程度、昭和３５年生まれは３倍程度の年金をもらいますが、昭和５５年以降に生まれた人は２倍強程度となっており、現在の受給者の世代の方が倍率が高くなっています。このようになっているのは、戦後の混乱の中で、当時の負担能力に見合った低い保険料からスタートして段階的に引き上げてきたことが原因ですが、当時の劣悪な生活水準や戦後復興期の日本経済の規模を考えれば決して低い負担ではなかったと考えられます。また社会保障制度ができる前は、現役世代は、両親や祖父母が長生きしたり、病気やけがの治療で高額の費用が必要になったり、身体が弱くなったり、長年にわたる日常生活に手助けが必要になったりした場合には各自が子や孫の務めとして、直接に金銭的援助や扶養をしたり、介護をすることが当然でした。すなわち現在の高齢世代は現役時代に親を私的に扶養しながら自分達の保険料を納め、社会をつくってきたわけで、現在の現役世代は親が年金を受給し、また皆保険の医療制度のおかげで経済的負担は親の世代に比べて軽減されていると言えます。「今の高齢者がやたら恵まれていて現役世代は不幸だ」とは一概には言えないのです。（参考：平成２４年版厚生労働白書）

病気の知識：肝臓の病気：① 慢性肝炎

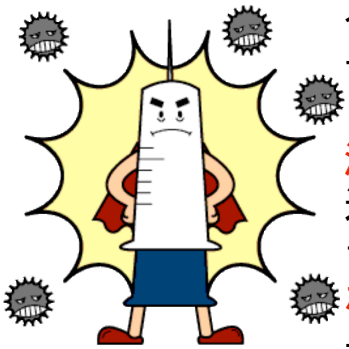
肝臓に炎症が起こるのが肝炎ですが、炎症が長期間持続する場合は慢性肝炎と呼ばれ、肝硬変・肝癌に移行する可能性が高くなります。慢性肝炎の原因としてはＢ・Ｃ型肝炎ウィルスが重要で、特にＣ型肝炎からは高い確率で肝癌が発生するので要注意です。ただし最近は肝炎ウイルスの検診が奨励され、またインターフェロンを中心とした治療法が発達してＣ型肝炎からの肝癌発生はピークを越えたと思われます。かわって増えてきたのが非アルコール性脂肪性肝炎でメタボで肝臓に脂肪が溜まっている方で慢性の炎症から肝臓癌に至る場合が増えています。メタボの方、気をつけましょう。

医院よりのお知らせ

①新年のご挨拶

皆様あけましておめでとうございます。昨年末は突然の衆議院解散で選挙となり、慌ただしかったですね。前々回の選挙では民主党に大きな風が吹き、私たち医療に携わる者も大いに期待をしましたがが、民主党政権の３年間を振り返りますとなんら目立った成果はありませんでした。それどころか鳩山・管の民主党２枚看板の首相時代は惨澹たるものでした。小泉政権から続いた市場原理主義こそ鳴りを潜めましたが、格差社会は依然として是正されず、相変わらず日本経済は低迷したままです。今回再び自民党が政権を奪回した訳ですが課題が山積です。われわれ医療人としては世界に冠たる国民皆保険制度を筆頭に社会保障制度の維持・充実を訴えかけていきたいと思っています。何れにしても今年は明るい１年になってもらいたいものですね。

②インフルエンザ予防接種はもう済みましたか？



今シーズンは寒くなるのが遅かったせいか、インフルエンザワクチンを接種される方が例年より少ない様です。インフルエンザは通常年明けからかかられる方が急速に増加し流行期に入ります。接種後に抵抗力がでてくるまで２～４週間かかりますので本来は１２月初めには接種しておくべきですが、流行期に入ってからでも接種が効果がある場合がありますので、まだ接種がお済みでない方はできるだけ早く接種して下さい。なおインフルエンザワクチン接種は１月３１日までとなっておりますが、実費での接種はそれ以降でも可能です。ご希望の方はご相談下さい。

③感染性胃腸炎にご注意を！！

昨年からいわゆる吐き下しの風邪がはやっています。原因は様々ですがノロウイルスによって重篤化する場合もあり注意が必要です。手についたウイルスなどから感染するので、食べる前にはよく手を洗うようにして下さい。

今そこにある危機：⑤ マイナンバー制度

マイナンバー制度とは国家が国民一人一人に番号をふる「国民総背番号制度」の日本版愛称です。政府は２０１５年にもこの制度を開始しようと国会に法案を提出していましたが、衆議院の解散で廃案になりました。しかしこの案は政権が変わってもまた復活してくる気配があります。この制度の目的は、行政が個人を識別することによって効率的に情報を管理・利用できるようにし、また国民の行政への届出等を簡素化することと謳われています。その利用は社会保障分野（年金・医療・介護・福祉等）・税分野・防災分野に限定されるそうですが、多くの問題点が隠されています。最も心配されるのは個人情報の流出です。病歴・治療歴など他人には明かしたくないような個人情報も一元的に管理されるので情報が漏れた場合の被害は甚大です。情報を全て管理するというのはまるで中国のような発想であり、民主主義的ではありません。

合田外科新聞

GSC

ホームページ　www.godageka.jp
ブログ　www.kiyoshi-goda.cocolog-nifty.com/jp

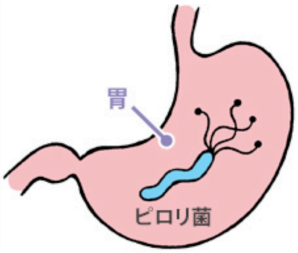
平成25年4月
第64号

合田外科
TEL　0797-71-2132
FAX　0797-74-1430

最近の話題：大気汚染

中国の大気汚染が深刻化しています。中国では既に１９８０年代後半より環境破壊が問題になっていましたが、長年にわたり経済開発を優先して環境対策は後回しにされてきました。問題が中国内だけならともかく大気汚染は日本にも大きな被害がおよぶので私達にとっても人事ではありません。本年１月には北京を中心に日本を遥かに超える範囲が重度の大気汚染に覆われました。北京では２００８年の北京オリンピック時には工場移転などで一時空気が浄化されたといわれましたが、根本的な対策はとられませんでした。特に北京には石炭火力発電所や自動車が多く、また周りが山に囲まれた地形で上空の大気が安定していたために深刻な汚染が生じたと考えられます。火力発電所で石炭を燃やした時に出る排ガスや自動車の排ガスが原因で直径２．５マイクロメートル以下の微粒子状物質「ＰＭ２．５」が生じると言われており、これが大気汚染の主因となっています。ＰＭ２．５は従来から環境基準を定めて対策を進めてきた１０マイクロメートル以下の粒子である浮遊粒子状物質（ＳＰＭ）よりも小さく、肺の奥深くまで入り込んで肺癌の発生を促したり、呼吸器系や循環器系に悪影響を及ぼすのではないかと懸念されています。現在ＰＭ２．５に関して全国５００箇所以上で地方公共団体によって常時監視がなされており、また環境省でも大気汚染物質濃度の状況を随時公表しています（大気汚染物質広域監視システム【そらまめ君】）。更に環境省の専門家会合ではＰＭ２．５に関する暫定指針がまとめられています。それによると１日平均値が７０マイクログラム／立方メートル（環境基準値の２倍）を超える場合には必要でない限り外出は控えること、屋外での激しい長時間の運動を避けること、肺や心臓に病気のある方や子供は特に慎重に行動することが呼びかけられています。大気汚染は国境を越えて広がるので厄介ではありますが、健康な人ではＰＭ２．５濃度が基準を超えていても直ちに健康に影響するわけではないので、油断は禁物ですが恐れ過ぎる必要はありません。何れにしても大気汚染の解決には中国での環境対策充実が必要であり、強く働きかけていかねばならないでしょう。

病気の知識：番外：慢性胃炎とピロリ菌



ピロリ菌が胃の粘膜に感染することによって胃炎が生じ、長い経過の間に粘膜が委縮して胃酸や粘液を分泌できなくなる萎縮性胃炎（慢性胃炎）に至ります。更に慢性胃炎の一部から胃潰瘍・胃癌が生じることが明らかとなり、ピロリ菌対策が重要視されるようになりました。ピロリ菌は感染したからといって直ちに命に関わる訳ではありませんが、５０歳以上の日本人では８０％が感染しており、注意が必要です。今春から慢性胃炎の場合でもピロリ菌の除菌が健康保険で行えるようになりました。気になる方は是非ご相談下さい。

医院よりのお知らせ

①検診が始まります！！

４月より平成２５年度の検診が始まります。当院では宝塚市国民健康保険特定健康診査（メタボ検診）と高齢者の方の宝塚市後期高齢者健康診査を行います。対象の方には宝塚市より案内が届きますのでお持ち下さい。またがん検診として、肺がん検診・大腸がん検診・肝炎ウィルス検診・前立腺がん検診も行っていますので合わせて受診下さい。

検診種類	期間	対象	内容	料金	その他
宝塚市国民健康保険特定健康診査	H25/4/1～H26/2/28	四十歳～七十四歳の宝塚市国民健康保険加入者	身体計測・血液検査・尿検査等	無料	心電図検査がある場合あり
宝塚市後期高齢者健康診査	H25/4/1～H26/2/28	七十五歳以上の宝塚市民で兵庫県後期高齢者医療の加入者	身体計測・血液検査・尿検査等	無料	心電図検査がある場合あり
肺がん検診	H25/4/1～H25/6/29 H25/9/2～H25/11/30	四十歳以上の宝塚市民	胸部エックス線直接撮影	500円	市民税非課税世帯・七十歳以上・宝塚市国民健康保険加入者・生活保護世帯は無料
大腸がん検診	H25/4/1～H26/2/28	四十歳以上の宝塚市民	検便（便潜血検査）	500円	
肝炎ウィルス検診	H25/4/1～H26/2/28	四十歳以上の宝塚市民で過去に肝炎検診未受診の方	血液検査（B型・C型肝炎ウィルス）	1200円	
前立腺がん検診	H25/4/1～H26/2/28	五十歳以上の宝塚市民（男性）	血液検査（腫瘍マーカー）	1000円	生活保護世帯は無料

②羽生田（はにゅうだ）たかしさんを応援しています！！

羽生田たかしさんは日本医師会の副会長で自民党の参議院比例区（全国区）の支部長をされています。現役の開業医で、４０年以上にわたり医師として医療の現場に携わってこられました。日本の医療制度は現在非常に揺らぎはじめています。混合診療の解禁や営利企業の医療参入など格差を助長する方向に向かいつつあります。羽生田さんは日本の医療制度の根幹である国民皆保険制度を維持し、安心して医療が受けられる社会を目指して活動されています。

【羽生田たかしさん略歴】

昭和２３年　誕生
昭和４８年　東京医科大学卒業
昭和５３年　羽生田眼科医院院長
昭和６２年　前橋市医師会理事
平成　５年　群馬県医師会理事
平成１２年　日本医師会常任理事
平成２２年　日本医師会副会長

今そこにある危機：⑥ ＴＰＰ（医療関係）

安倍首相がＴＰＰ交渉への参加を正式に表明しました。もともと関税を撤廃するという話なので国内農業への打撃は甚大ですが、実は医療も大きな影響を受ける可能性があります。日本の医療制度は「国民皆保険制度」と言い、全ての国民が保険料を払う代わりに、診療を受ける時は１～３割の負担で済んでいます。保険で使える薬や診療代は政府が決めており、できるだけ安く抑えています。しかしＴＰＰ交渉では保険診療と自由診療を組み合わせる混合診療が求められたり、輸入薬剤も安価な公的価格でなく値上げを求められたりする恐れがあるのです。混合診療は最新の治療が受け易くなるなど一見よさそうですが、儲けの大きい自由診療だけが増えたり、新しい医療・薬剤はいつまでたっても保険適応にならなかったりするなど弊害が危惧されます。アメリカの製薬会社や保険会社は日本で儲ける機会を狙っています。病気の治療のために破産した・・・決して夢物語ではありません。

合田外科新聞

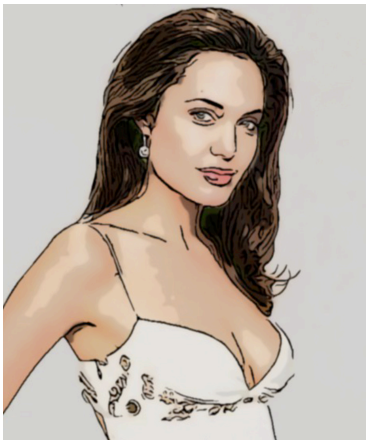
GSC

ホームページ　www.godageka.jp
ブログ　www.kiyoshi-goda.cocolog-nifty.com/jp

平成25年7月
第65号

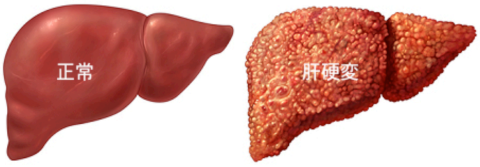
合田外科
TEL　0797-71-2132
FAX　0797-74-1430

最近の話題：予防的乳房切除



アメリカの有名な映画女優のアンジェリーナ・ジョリーさんが、５月１４日、「ニューヨークタイムズ」紙を通じて予防的に両方の乳房を切除する手術を受けたことを公表しました。アンジェリーナさんは素晴らしいプロポーションの持ち主で、多くのハリウッド映画で活躍しているのみならず、積極的なボランティア活動で社会的にも評価の高い方です。そのような方の発表だったので世界中に驚きと衝撃を与えました。実はアンジェリーナさんは遺伝子（彼女の場合はＢＲＣＡ１）に異常があり、先天的に非常に乳癌・卵巣癌に罹りやすい状態だったのです。事実、アンジェリーナさんの母親は５６歳で乳癌のために亡くなっており、アンジェリーナさん自身も乳癌になる可能性が８７％、卵巣癌になる可能性が５０％と見積もられていました。この病気は遺伝性乳癌・卵巣癌症候群（ＨＢＯＣ）と呼ばれ、ＢＲＣＡ１あるいはＢＲＣＡ２遺伝子の先天的な異常が原因です。遺伝子の異常は親から子へと遺伝し、この遺伝子異常を持つ女性が生涯で癌を発症するリスクは、乳癌で４５～８４％、卵巣癌で１１～６２％と推測されています。ＨＢＯＣの女性はある年齢時点で例え癌が未発症でもその後に癌に罹る可能性が非常に高いので、１８歳からの自己乳房検診、２５歳からの医療機関での乳房検診・マンモグラフィー・乳房ＭＲＩ（年に１回）という注意深い検診が推奨されています。アメリカでは昨年、ＢＲＣＡ１／ＢＲＣＡ２遺伝子に変異のある女性の約８０％が乳房もしくは卵巣の切除などの予防的外科手術を受けているとの報告がありました。文化的・民族的背景が異なりますので、日本ではまだ癌の発症していない健全な組織にメスを入れることには抵抗が大きいと思われます。また予防切除により確かにリスクは激減するものの完全にゼロにはならないこと、手術自体にリスクを伴うことなども無視できません。それでもこのような方に対して治療の選択肢が増えるのは望ましいことでしょう。現在日本では東京の癌研有明病院と聖路加国際病院が予防的乳房切除に向けての準備を進めているようです。

病気の知識：肝臓の病気：② 肝硬変



肝硬変は文字通り肝臓が硬く変わってしまった状態で、慢性肝炎の成れの果てといえます。肝硬変になると肝臓の機能は殆どなくなり様々な症状が出現します。肝臓が蛋白質を合成できなくなって血液中の水分が漏れ出しお腹に水が溜まったり（腹水）、血が止まりにくくなったり（止血能低下）します。また解毒作用が低下して有毒物質が蓄積して精神症状が現れたり（肝性脳症）、肝臓が硬いために血液の流れが妨げられ血管に瘤ができ破れて吐血したりします（胃・食道静脈瘤）。また肝臓癌ができやすくなるので注意が必要です。

医院よりのお知らせ

①熱中症に気をつけましょう！！

今年もまた暑い季節がやって来ました。これからの時期に気をつけなければならないのが「熱中症」です。熱中症は気温が高い時や激しい運動などで体内にたくさんの熱が発生すると起こり易いのですが、時には屋内でじっとしていても起こることがあります。閉め切った部屋で夏の暑い最中にクーラーをかけずにじっとしているだけで熱中症になってお亡くなりになった方もいるので、ゆめゆめ油断は禁物です。症状は軽い場合には手足の筋肉に痛みを伴う痙攣が生じる位ですが、ひどくなると目眩・頭痛・嘔吐などが起こったり、極端な場合には意識をなくして死亡することもあります。しっかりと水分を摂ったり冷房をいれて室温を下げることが大切です。気象庁の長期予報では今夏の近畿地方は例年並みか例年以上に暑くなるようですので、くれぐれも熱中症にお気をつけ下さい。

②新型ローラーベッド導入

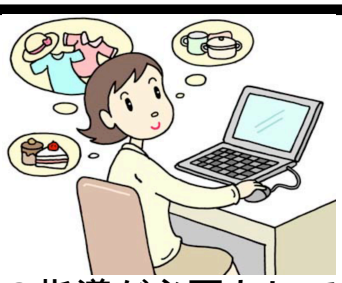
この度、リハビリ室で使用しているローラーベッドを大島製作所製の最新型「オスピナレーターフロンティアＦ１５０」に交換致しました。先代のローラーベッドは愛好されている方も多く、評判がよかったのですが、長年に渡る使用で残念ながら寿命となりました。今回導入したベッドはこの分野で経験の深い大島製作所によるもので、ローラーベッドの高級機と謳われています。非常に快適なもみ心地ですので是非お試し下さい。

③お盆休みに関して

８月のお盆休みは例年どおり、８月１３日（火）～１５日（木）の３日間の予定です。ご来院の皆様にはご不便をおかけ致しますがご了承願います。

日曜	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
８／１１	８／１２	８／１３	８／１４	８／１５	８／１６	８／１７
休診	診療	休診	休診	休診	診療	診療

今そこにある危機：⑦薬ネット販売



医薬品のうち医師の処方箋なしで購入できる物を「一般用医薬品」と言い、別名「大衆薬」とも呼ばれています。ドラッグストアなどで購入できる風邪薬や胃腸薬などが相当しますが、副作用のリスクもゼロではありません。従来、厚生労働省は大衆薬でも対面販売を原則とし、実店舗において薬剤師の指導が必要としてきました。しかし利便性を求める声が高まり、リスクの低い物はコンビニなどでも販売できるようにしました。厚生労働省は省令でネットでの販売は禁止していましたが、昨年、ネット販売を求める訴訟で敗訴してしまいました。今回、安倍首相の決断にて大衆薬は全面的にネット販売可能となりましたが、薬剤師や薬害被害者の団体は批判しています。ネットでは副作用の説明が十分ではなく、また特定の薬剤を大量に購入するなどが危惧されるからです。何れにしましてもネットでの薬剤の購入には自己責任が強く求められることになります。